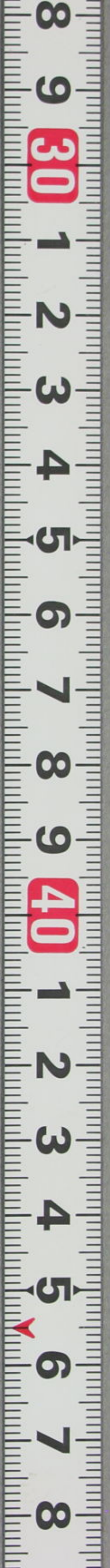


^ 13
3815
1



門へ13
 號3815
 卷1

東山殿

榮花

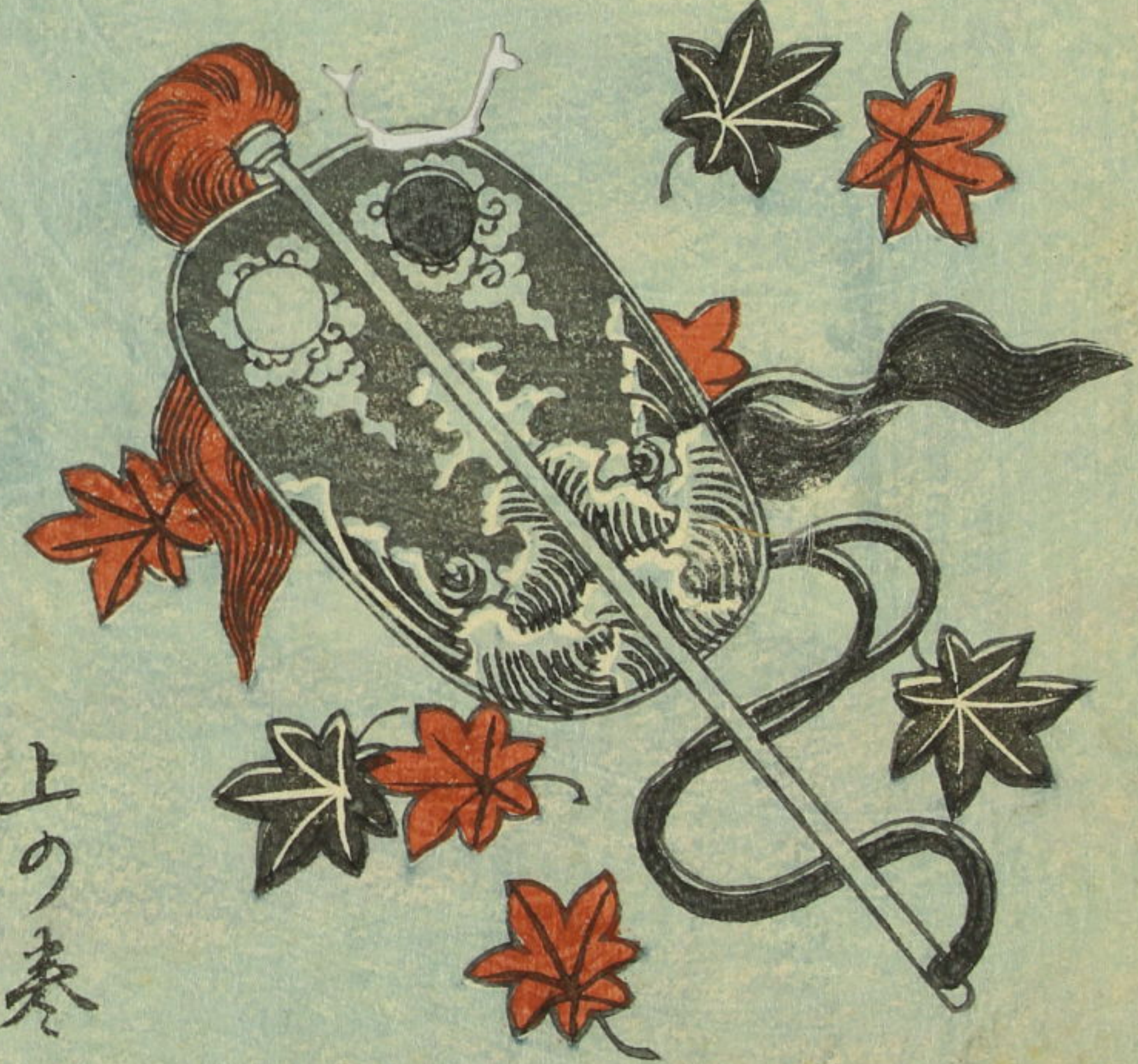
舞臺



再探

契情

糸月



上の巻



弓ハ袋不納も多る。静けき御代ハ總ての人情抜る太刀の功名の
 専とせる四民の頓方後世かそ韓信ハ小股を潜りて利不沈り。
 か髭此の塵掃張良ハ黄石公の杵をあらして山吹色を得ま
 欲せり。されハ四時の新板也。作者の趣向樽底みく。花相似
 たる段紙のから摺濱の真砂子の面白標史也。本文ハさ
 たり。面里うらと。年歳六度の歌舞妓を其終倒の合巻不抄
 録物也。中道さぬ沽業の道みん如才並木舎五柳名不高嶋の
 米升よ。さる豊饒を此出未秋の稗史不写し。のせり。好
 事の雅。あるといふ字の幸先ハ當吾ガ傳記の初編の吉兆守
 田の神の田元帥也。井出を條田の作男を護らせぬハ利益を
 山田の實入も多うとん

文久辛酉初秋

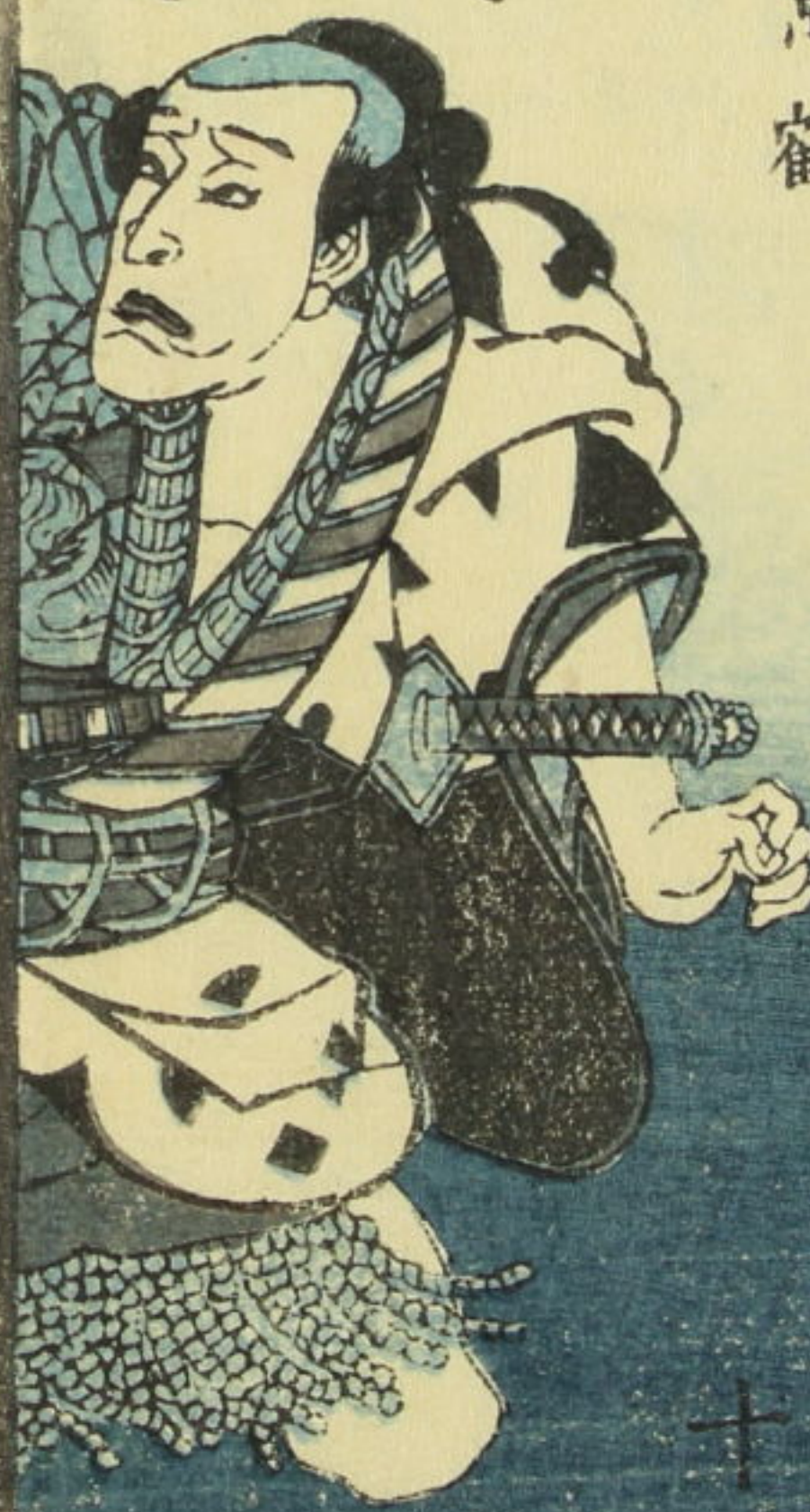
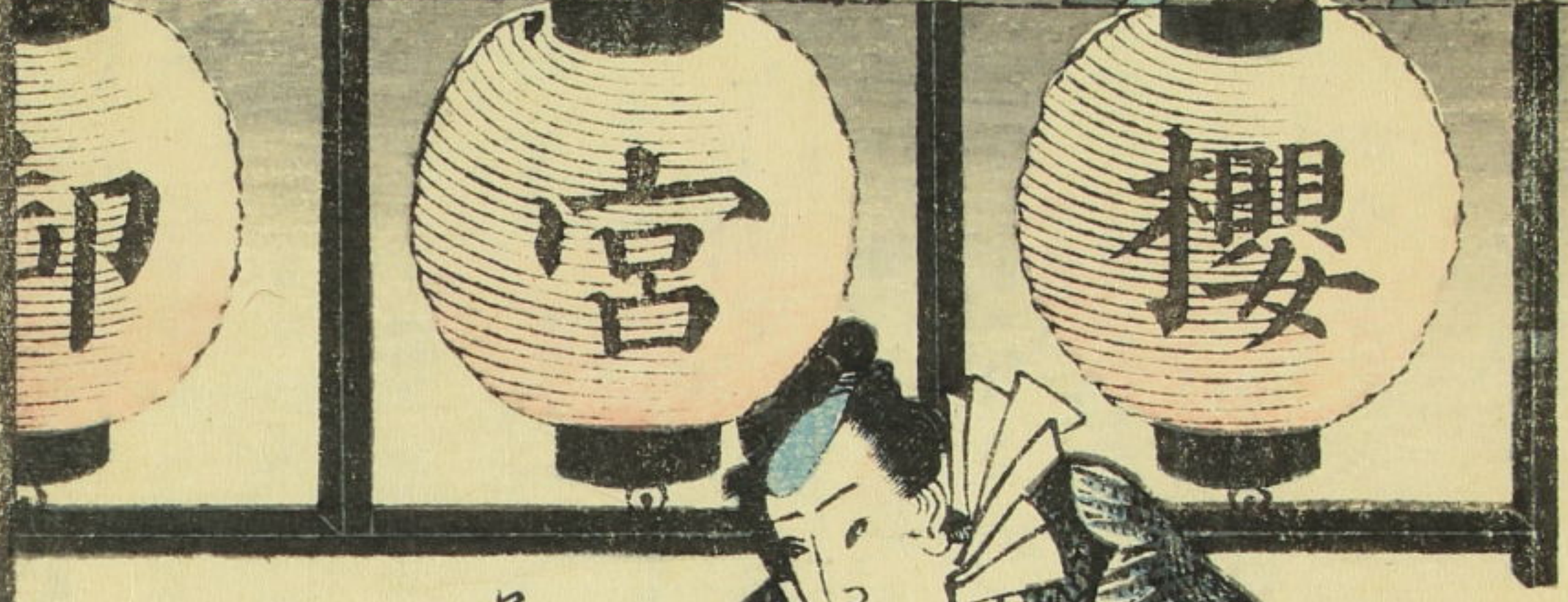
假名垣魯文序記



組頭
久左工門



當
於
梅
妹



斎
ころ
大
字
の
大

京
鶴

村
長
十
作

待
人
乃
有
人
海
の
梅



雄山

櫻の
州の
宮本
宮地
八幡宮
社の
内の
圖

佐六村

八幡宮

鳥居



本

水
高
千
秋
初
の
お
月

朝倉
當吾

有人
出
本
二
編
み



ついでに... 光寺... 下女... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次...

セバ... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次...



よこの... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次...

セバ... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次... 光寺... 下女... 平次... 八平次...





▲イヤチの
 正月三日
 正月三日
 正月三日
 正月三日

正月三日
 正月三日
 正月三日
 正月三日



正月三日
 正月三日
 正月三日
 正月三日

正月三日

正月三日
 正月三日
 正月三日



正月三日
 正月三日
 正月三日

正月三日

